

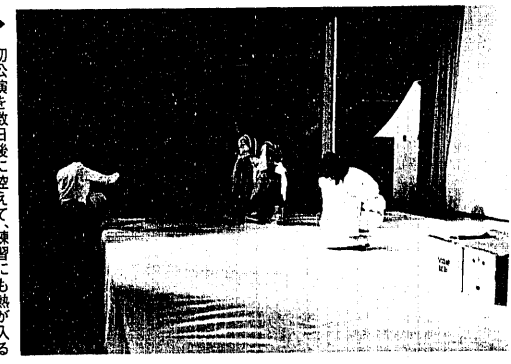
# 劇団「どんぼす」 初公演まで

劇団「どんぼす」(オニバスの方言)代表、阿部淳二の旗揚げ公演「多鶴」が十月十九日、中央公民館で盛況に行われました。演劇の好きな仲間七人で昨年の十二月にスタートした「どんぼす」は、今年の八月から半立ち上げ(台本を持つ)のけいこ、十月によく台本なしの立ち上げ(こと、ハードスケジュールでしたが、当日は約六百人の観客を動員し大成功を収めました。彼らは、舞台作りから音響、照明などすべて自分達の手でやります。今は座員も十六人(男八人、女八人)に増え、第二回公演目指してがんばっています。

練習風景、公演当日の模様をカメラで追ってみました。



「多鶴」の名場面に入場する「与ひょう」と「つづ」



初公演を数日後に控えて練習にも熱が入る



熱演



舞台裏では、こんなシーンも



公演を終えてタバコの味もかく



無事初公演終了。先生を囲んで、さっそく反省会

## 土語 は

(31)

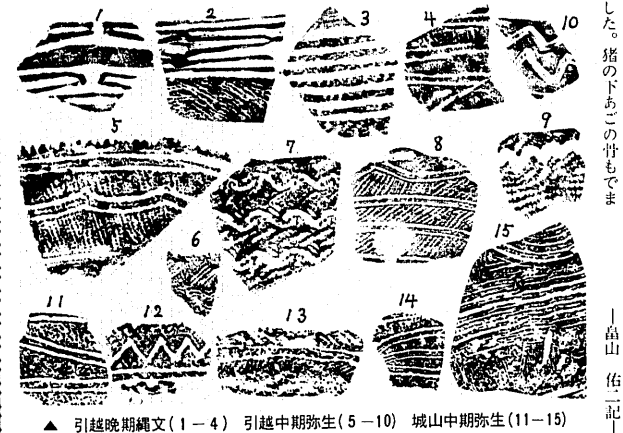
明治十七年、東京の本郷弥生町に縄文土器とちがったつぼが発掘され、地名をとり弥生土器と名づけました。約二千三百年前、南朝鮮の人達が北九州に移住し稲を作り鉄や青銅器を使用しました。自然物だけをたより食生活におびえていた縄文人はそれにとびつき、採集生活から生産生活に入りました。朝鮮や中国(漢時代)の大衆文化の影響を強く受けたのが弥生時代です。

馬や牛やにわとりをかい、桃や瓜をつくりました。食生活がよくなったので体質も縄文時代の短頭が長頭となり身長も伸びました。明治時代も

### 弥生時代

最近も急激に身長が伸びました。この文化は前期には九州から近畿まで、中期には関東信越まで、後期には北海道を除き全国に広がりました。約六百年つづきました。

○引越・城山遺跡  
引越遺跡は、前は島見湖、後は寒さを防ぐ引越山の麓にあります。文化三年(二八〇六年)島見湖に流れていた新発田川を、引越山を掘り割り樋ノ入へ流した時、遺跡は川底となりました。昭和三十一年十二月から三十二年四月にかけて約一ヶ月掘りさげられた時、晩期縄文と中期弥生が混在して出土しました。城山遺跡は昭和二十九年から三十一年にかけて山を崩して畑にした時、晩期縄文と中



▲引越晩期縄文(1-4) 引越中期弥生(5-10) 城山中期弥生(11-15)

期弥生が混在して発掘されました。猪の骨も多かった。猪の骨も多かった。猪の骨も多かった。

豊栄市と新潟市が、橋を隔てて隣り合わせ。今月、新発田川の最下流(豊栄市分)に架かる「高鼻橋」を紹介します。本間久二郎さん(下大谷内六六歳)に語ってもらいました。

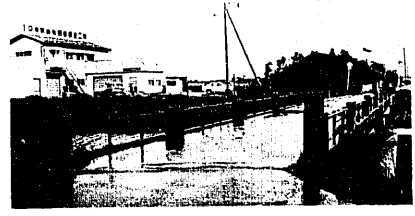
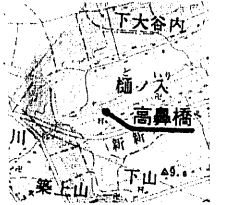
どうして高鼻橋と

「この辺りは、地名を下大谷内字代官野と言ってます。その昔、鼻の高い代官様でもいたんですよかねえ(ハッハッ) 部落も高鼻と言ったりもするけれど、本当の由来は分かりませぬ」

いつ出来た橋ですか

「現在の橋は、昭和三十一年の三月に完成しました。新発田川と通称樋ノ入川が、高鼻橋の上流で合流していたのを、昭和十七年だったと思えますが、改修して、今のような流れになったんです。以前は、どこでもそうでしたが、木橋で、丸太の上に杉皮を敷

### 20 高鼻橋



▲写真は現在の高鼻橋。新潟市側から豊栄市側を望む。